

大腸癌が増えている

都留市立病院 外科 小澤 昭人

今回は、近年増加し続けている大腸癌についてお話ししたいと思います。現在、年間二千五百人以上が大腸癌で死亡しており、これは胃癌、肺癌について日本人癌死亡の第三位にあたりますが、近い将来には胃癌を抜くと予想されています。

図1に大腸癌の罹患率(病気になる率)と死亡率の推移を示しましたが、これを見ても年々増加していることがわかります。

なぜ大腸癌が発生するのか、かなり解明されつつありますが、ま

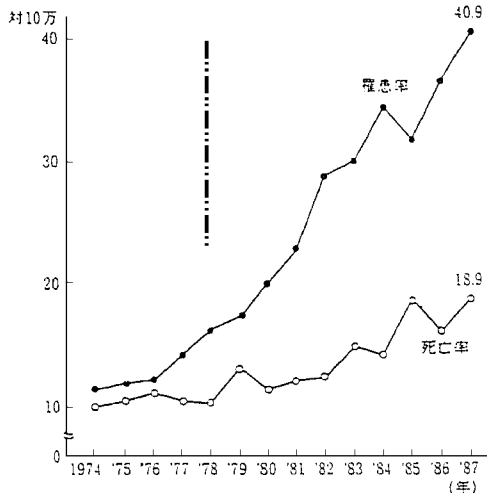


図1 大腸癌罹患率・死亡率の推移

だ確定的なことはわかっていません。ただ、大腸癌の発生に強く関連していることがあり、ひとつは食生活であり、高脂肪、低食物繊維食食ほど大腸癌の発生に促進的であるということ、もうひとつは、家族歴であり、親、兄弟に大腸癌のいる場合は注意が必要です。



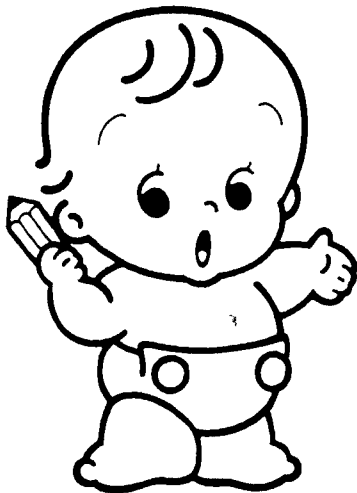
では、大腸癌をできるだけ早期に発見して、治療するにはどうしたらよいのでしょうか。大腸癌の症状として、血便、腹痛、便通異常(便秘したり、下痢したり等)が代表的ですが、これらの症状は、かなり進行してから出現することが多く、初期は無症状のこと

も少なくありません。そこで現在スクリーニング検査として用いられているのが、免疫学的便潜血検査です。この免疫学的検査は便中のごく微量の血液に反応し、しかも人間の血液にかなり特異的に反応するので、特別な食事制限は不要です。無症状の時期に便潜血反応陽性で発見された大腸癌は、何らかの症状が出てから発見された大腸癌に比べて、より早期に発見され手術治療等で充分治せるものの割合が高いこともわかってきています。ですから、四十歳以上になったら、年一回は便潜血検査を受けることが望ましく、何らかの症状がある場合や、潜血反応陽性の場合には、注腸検査(肛門からバリウムと空気を注入し、大腸のレントゲン写真をとる検査)が大腸内視鏡検査を受けるのが望ましいです。

国勢調査による人口・世帯数の推移

調査年	世帯数 (戸)	人口 (人)		
		総数	男	女
大正9年	4,850	24,856	12,046	12,810
14年	4,740	23,752	11,671	12,081
昭和5年	4,592	22,988	11,478	11,510
10年	4,602	24,277	12,026	12,251
15年	4,549	24,158	12,026	12,132
22年	5,903	30,654	14,702	15,952
25年	5,761	31,098	15,042	16,056
30年	5,773	30,730	14,777	15,953
35年	6,205	29,262	13,883	15,379
40年	7,430	30,320	14,471	15,849
45年	8,637	31,188	14,926	16,262
50年	9,554	32,607	15,557	17,050
55年	10,034	32,901	15,960	16,941
60年	10,466	33,158	16,113	17,045
平成2年	11,178	33,903	16,426	17,477

10月1日は 国勢調査の日です



センサスくん

10月1日、全国一斉に国勢調査が行われます。

国勢調査の結果は、福祉、雇用、住宅対策など、国や都道府県・市区町村の行政に利用されます。

9月23日から、調査員が皆さんのお宅に伺いますので、ご協力をお願いします。

調査票の記入内容は、法律により統計以外の目的に使用することは固く禁じられていますので、安心してご協力ください。

国勢調査

問合先 市商工観光課統計労政係

「数字の中に入ってる僕も、私も、赤ちゃんも」